

東米良観光案内

【本殿・御神木・幣拝殿・龍房山】

銀鏡神社は長享3年(1489年)3月16日に米良領主(米良石見守重次。肥後菊池家の末裔)によって中島に創建された。その後、延宝3年(1675)12月14日、霊峰龍房山の西麓に位置する現在の境内にあったイチイガシ(御神木。現在は根株が祀られている)の傍に移設されていたが、明治25年に本殿、幣拝殿を新設するにあたり、元宮は伝承館横に再移設され、屋根をかけて祖霊社として大切に保存されている。

その後本殿は、昭和52年(1977)に背後地を広げて幣拝殿と一緒に後方に移し、銅板葺きとなった。

現在の幣拝殿は、平成27年(2015)に当時東京在住の地元出身者が、所有林の檜材を提供し、伐採・搬出・製材加工・建築費等一切を寄進して改築されたものである。

古来、当地では龍房山は「神の坐す山＝霊山」であり、村人の日々の祈りの対象となってきた。いわゆる「山の神信仰」である。当神社に伝わる銀鏡神楽は、神社創建以前には御神木のイチイガシの下で三間四方に注連縄を張り、神事を行い、龍房山の神に向かって神楽を舞っていたと社伝にある。銀鏡神楽は山岳信仰と深い関わりがある。

※ 御神木であった根株は、宮人家(みょうどけ)により神事が行われている。

※ 昭和52年(1977)に「米良神楽」の名称で、宮崎県では最初に国指定重要無形民俗文化財となり、令和5年(2023)3月に米良地域の5つの国選択神楽が加わり、指定名称が「米良の神楽」に変更された。

※ 神社創建以前の村人は、御神木のイチイガシの巨木を通して龍房山の神様を拝んでいた。

本殿



御神木



幣拝殿



龍房山

